

○ 関東132号

1. 来歴

- 1) 系統名 関東132号 (旧系統名：谷系21)
- 2) 交配組合せ 関東123号 (母) × ベニオトメ (父)
- 3) 用途 青果など

2. 特性の概要

1) 主な特性

萌芽性は中。いもの皮色は赤紫、肉色は淡黄である。いもの形状は紡錘形、大小はやや大で、揃いは両者ともやや整である。条溝と皮脈は無、裂開は微で、外観は上である。上いも重はマルチ早掘栽培、マルチ標準栽培、無マルチ標準栽培の全てにおいて、「ベニアズマ」に比べ180～210%多収である。蒸しいもの肉色は黄白～淡黄で、肉質は粘、調理後黒変はやや多、食味は、中～やや上である。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウに中～強、立枯病に中、つる割れ病に強、黒斑病に中～強である。いもの外観が良く、極多収であることから、青果用かんしょとして有望である。

2) 育成地における栽培試験成績

① マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成20年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東132号	537	182	97	322	.2	30.9	やや上	赤紫	紡	淡黄	粘	中	中
標)ベニアズマ	294	100	99	279	.7	34.7	やや下	濃赤紫	紡	黄	粉	やや少	上
比)高系14号	271	92	98	213	.3	30.9	やや下	赤紫	紡	黄白	中	少	中

② マルチ早掘栽培の収量品質調査成績 (平成20年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東132号	332	201	97	195	4.3	29.0	やや上	赤紫	長紡	黄白	粘	やや多	やや上
標)ベニアズマ	166	100	96	148	2.8	36.1	中	赤紫	紡	淡黄	粉	中	上
比)高系14号	199	120	97	187	2.7	32.2	中	赤紫	紡	黄白	中	やや少	やや上

③ 病虫害抵抗性 (平成20年度)

品種・系統名	育成地					特性検定試験	
	ネコブセンチュウ 場内 (谷和原)	ネコブセンチュウ 現地 (香取)	立枯病 (香取)	つる割れ病	黒斑病	ネコブセンチュウ (静岡)	黒斑病 (長崎)
関東132号	中	強	やや強	強	やや強	強	中
ベニアズマ	やや強	やや弱	強	やや弱	中	弱	—
高系14号	中	弱	やや弱	やや弱	中	—	弱

○ 関東133号

1. 来歴

- 1) 系統名 関東133号 (旧系統名: 作系18)
- 2) 交配組合せ 関東120号 (母) × クイックスイート (父)
- 3) 用途 蒸切干加工など

2. 特性の概要

1) 主な特性

萌芽性はやや良。いもの皮色は赤紫、肉色は淡黄である。いもの形状は紡錘形、大小はやや大で、揃いは両者とも中である。条溝および皮脈は無、裂開は無で、外観は中である。上いも収量は無マルチ、マルチともにタマユタカに近く、やや多収である。蒸切干の肉色は黄で、肉質はやや粘である。蒸切干の食味はやや上でタマユタカと同等であり、中白の発生は微である。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウに強、つる割れ病にやや強、立枯病に中、黒斑病にやや弱である。いも収量および蒸切干の食味が比較的優れ、蒸切干の中白発生が少なく、蒸切干加工用かんしょとして有望である。

2) 育成地における栽培試験成績

① 無マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成20年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸切干				
							外観	皮色	形状	中白	肉色	肉質	繊維	食味
関東133号	373	91	97	244	3.4	30.8	中	赤紫	紡~短紡	微	黄	やや粘	中	やや上
標)タマニタカ	410	100	99	405	2.3	30.8	中	帯紅/淡黄白	紡~短紡	やや少	灰白	やや粘~中	やや少	やや上
比)泉13号	145	35	96	158	2.1	34.5	中	淡黄白	紡~長紡	無	黄白	やや粘~中	中	上

② マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成20年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸切干				
							外観	皮色	形状	中白	肉色	肉質	繊維	食味
関東133号	508	97	98	312	4.2	31.4	中	赤紫	紡	無	黄	やや粘	中	やや上
標)タマニタカ	521	100	99	460	2.9	31.2	中	帯紅/淡黄白	紡~短紡	少	灰白	中	やや少	やや上
比)泉13号	162	31	93	160	2.8	34.9	やや下	淡黄白	紡~長紡	微	黄白	中	中	やや上~上

③ 病虫害抵抗性 (平成20年度)

品種・系統名	育成地				特性検定試験		
	ネコブセンチュウ 場内 (谷和原)	ネコブセンチュウ 現地 (香取)	立枯病 (香取)	つる割れ病	黒斑病	ネコブセンチュウ (静岡)	黒斑病 (長崎)
関東133号	強	強	中	やや強	やや弱	やや強	弱
タマニタカ	中	中	中	中	強	-	-
泉13号	やや強	中	弱	弱	-	-	-

○ 関東135号

1. 来歴

- 1) 系統名 関東135号 (旧系統名: 谷系28)
- 2) 交配組合せ 谷系11 (母) × ベニアズマ (父)
- 3) 用途 青果など

2. 特性の概要

1) 主な特性

萌芽性はやや良。いもの皮色は赤紫、肉色は黄である。いもの形状は短紡錘形、大小はやや小～中で、形状の揃いは中、大小の揃いは中～やや不整である。条溝は微、皮脈は無、裂開は無で、外観は中である。上いも収量は、マルチ早掘栽培ではベニアズマの1.6倍と多収で、マルチ標準栽培ではベニアズマ並～やや多収である。蒸しいもの肉色は橙色を帯びた黄色で、肉質はやや粉～やや粘である。調理後黒変は少～やや少で、食味はやや上である。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウにやや強、立枯病に中、つる割れ病に強、黒斑病に中～やや弱である。早掘栽培において多収で、肉色に特徴があり、食味が良いことから、青果用かんしょとして有望である。

2) 育成地における栽培試験成績

① マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成22年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東135号	330	118	98	205	4.2	35.5	中	赤紫	球～短紡	黄 (橙)	やや粘	やや少	やや上
標) ベニアズマ	279	100	98	282	2.6	35.6	やや下	濃赤紫	紡	黄	粉	中	やや上
比) 高系14号	324	116	97	219	3.7	31.0	中	赤紫	紡	淡黄	中	やや少	やや上

② マルチ早掘栽培の収量品質調査成績 (平成22年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東135号	247	162	99	223	2.8	38.1	中	赤紫	紡～短紡	黄 (橙)	やや粉	中	やや上
標) ベニアズマ	152	100	95	206	1.9	36.7	やや下	濃赤紫	紡	淡黄	粉	中	やや上
比) 高系14号	227	149	98	234	2.5	33.0	中	赤紫	紡	黄白	中	やや少	やや上

③ 病虫害抵抗性 (平成22年度)

品種・系統名	育成地					特性検定試験	
	ネコブセンチュウ		立枯病 (香取)	つる割れ病	黒斑病	立枯病 (徳島)	黒斑病 (長崎)
	場内 (谷前原)	現地 (香取)					
関東135号	やや強	強	やや弱	強	やや弱	やや強	中
ベニアズマ	中	中	強	中	やや弱	強	—
高系14号	やや弱	やや弱	弱	やや強	やや強	弱	弱

○関東137号 (平成24年度新規)

1. 来歴

- 1) 系統名 関東137号(旧系統名:谷系32)
- 2) 交配組合せ 谷系16(母)×ひめあやか(父)
- 3) 用途 青果など

2. 特性の概要

1) 主な特性

萌芽性は中。いもの皮色は濃赤紫、肉色は黄である。いもの形状は紡錘形、大小は中で、揃いは両者ともやや整である。条溝、皮脈、裂開はすべて無で、外観はやや上～上である。上いも重はマルチ早掘栽培、マルチ標準栽培ともに「ベニアズマ」より多収である。蒸しいもの肉色は黄で、肉質は中～やや粉、食味はやや上で「ベニアズマ」並かより優れる。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウに中～やや強、立枯病に中、つる割れ病にやや弱、黒斑病にやや強である。貯蔵性はやや難である。いもの外観が良く多収で、食味も優れることから、青果用かんしょとして有望である。

2) 育成地における栽培試験成績

① マルチ標準栽培の収量品質調査成績(平成23年度)

品種・系統名	上いも重(kg/a)	対標準比(%)	上いも1個重(g)	1株上いも数	切干歩合(%)	いも			蒸しいも				
						外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	黒変	食味
関東137号	409	148	266	3.9	34.5	やや上	濃赤紫	紡	黄	中	やや少	やや少	やや上
標)ベニアズマ	276	100	238	2.9	35.3	やや下	濃赤紫	紡	黄	粉	中	やや多	中
比)高系14号	353	128	254	3.5	31.4	中	赤紫	紡	黄白	中	やや少	中	中

② マルチ早掘栽培の収量品質調査成績(平成23年度)

品種・系統名	上いも重(kg/a)	対標準比(%)	上いも1個重(g)	1株上いも数	切干歩合(%)	いも			蒸しいも				
						外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	黒変	食味
関東137号	282	152	187	3.8	32.9	上	濃赤紫	紡	黄	やや粉	中	やや多	やや上
標)ベニアズマ	186	100	182	2.6	33.7	やや下	濃赤紫	紡	黄	粉	中	中	中～やや上
比)高系14号	252	136	218	2.9	30.2	中	赤紫	紡	黄白	中	やや少	やや少	中

③ 病虫害抵抗性(平成23年度)

品種・系統名	育成地					特性検定試験	
	ネコブセンチュウ		立枯病(香取)	つる割れ病	黒斑病	立枯病(徳島)	黒斑病(長崎)
	場内(谷和原)	現地(香取)					
関東137号	中	やや強	中	やや弱	やや強	やや強	強
ベニアズマ	やや弱	やや弱	やや強	中	中	やや強	—
高系14号	弱	やや弱	弱	中	やや強	やや弱	弱

○関東138号 (平成24年度新規)

1. 来歴

- 1) 系統名 関東138号(旧系統名:作系27)
- 2) 交配組合せ 作系15(母) × 作系8(父)
- 3) 用途 蒸切干加工など

2. 特性の概要

1) 主な特性

萌芽性はやや良。いもの皮色は淡赤紫、肉色は淡橙である。いもの形状は紡錘～短紡錘形、大小は中で、形状の揃いはやや整、大小の揃いは中である。条溝は微、皮脈は無、裂開は無で、外観はやや上である。上いも収量は無マルチで「タマユタカ」よりやや劣り、マルチでは「タマユタカ」並み。蒸切干の肉色は橙色で、肉質はやや粘である。蒸切干の食味はやや上で「タマユタカ」並みまたはやや優れ、シロタ(中白)の発生は無である。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウに強、立枯病に弱、つる割れ病にやや強～強、黒斑病にやや強である。本系統は、蒸切干が橙色で食味が比較的優れ、蒸切干のシロタの発生が無く、高品質蒸切干加工用として有望である。

2) 育成地における栽培試験成績

① 無マルチ標準栽培の収量品質調査成績(平成23年度)

品種・系統名	上いも重(kg/a)	対標準比(%)	上いも率(%)	上いも1個重(g)	1株上いも数	切干歩合(%)	いも			蒸切干				
							外観	皮色	形状	中白	肉色	肉質	繊維	食味
関東138号	362	91	93	129	5.9	27.8	やや上	淡赤紫	紡～短紡	無	橙	やや粘	中	やや上
標) タマユタカ	396	100	99	338	2.5	31.1	中	帯紅/淡黄白	紡～短紡	少	灰白	やや粘～中	中	中～や上
比) 泉13号	171	43	94	151	2.4	36.2	やや下	淡黄白	紡	無	黄白	中	中	上

② マルチ標準栽培の収量品質調査成績(平成23年度)

品種・系統名	上いも重(kg/a)	対標準比(%)	上いも率(%)	上いも1個重(g)	1株上いも数	切干歩合(%)	いも			蒸切干				
							外観	皮色	形状	中白	肉色	肉質	繊維	食味
関東138号	393	98	93	140	7.0	27.2	やや上	淡赤紫	紡～短紡	無	橙	やや粘	中	中～や上
標) タマユタカ	399	100	99	289	3.5	31.2	中	帯紅/淡黄白	紡～短紡	微	灰白	中	中	中
比) 泉13号	187	47	91	142	3.5	37.3	やや下	淡黄白	紡	微	黄白	中	中	やや上

③ 病虫害抵抗性(平成23年度)

品種・系統名	育成地					特性検定試験	
	ネコブセンチュウ		立枯病(香取)	つる割れ病	黒斑病	立枯病(徳島)	黒斑病(長崎)
	場内(谷和原)	現地(香取)					
関東138号	強	強	弱	強	やや強	やや強	弱
タマユタカ	やや強	やや強	中	やや強	強	—	—
泉13号	やや強	やや強	やや弱	中	中	—	—